

# エゾマツ



No. 45

1998. 6. 15

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 目 次

1. 巻頭言 緑映える函館山に自然を学んで ..... 会長 大友 健 ..... (1)
2. 活動の輪を広げていこう ..... (2)
3. 旭川自然観察会を終えて ..... 上川地方幹事 野呂 一夫 ..... (3)
4. 会員の声 ..... (4)
5. お知らせ ..... (6)
6. 自然観察ガイドブック写真撮影を担当して ..... 佐藤 健一 ..... (7)
7. 北限のブナ林余話 ..... 川端 功治 ..... (9)
8. 第13回総会報告 ..... (13)
9. 第13回定期総会議案書 ..... (15)
10. 観察会研修会情報 ..... (23)
11. 編集後記 ..... (27)

## 緑映える函館山に自然を学んで

会長 大友 健

函館山は、最高峰の御殿山333メートルをはじめ、ツツジ山、入江山など大小12の山々から成り立ち、幕府直轄の時代まで森は、伐採と植林の繰り返しがなされ荒廃しかかっていたが、やがて森林の保護思想が芽生え植林が進められ、津軽要さい地帯の期間も含め100年をかけた今は、当時のスギは見事に生長しさまざまな樹木と森林環境を構成して、多くの草花、野鳥、動物が生息する濃密な生態系を保った山々となり、ただ今では人々が「人と自然、歴史とが共存してきた山」として、自然にふれる利活用をしているのである。

研修に参加する機会があり、私にとっては知り得なかったこの山の自然に、感動にあふれた2日間を過ごす事が出来たのである。

遠くより眺めていたこの山に、足を踏み入れてみると広葉樹林の林床には、エンレイソウの類、スマレの類、シラネアオイなどの群生があちらこちらに見られ、5月の言葉で語りかけてくれている気がしたのである。

ニリンソウの群生をしばし眺め、森林総合研究所の先生が話されていた言葉を思い出した。「樹木の花粉を運ぶ昆虫の大部分は、草本を含めたいろいろな植物の花を訪れ、これらのうちで採じと、交尾の場所提供をいただいているとこのことを」ただ一輪の花を愛でるだけでなく、美しく咲くための因子は何か、その関連として因子構成はどうかと、勝手な想像をしながら5月の陽を浴び散策は続くのであった。

この地域は、特別な海洋環境をもつ津軽海峡北岸に位置し、自然環境が海中植物にも、生育層という秩序のあることや、函館山が100万年前後に活動し、基岩、溶岩やその砕けた細粒岩で構成され、植物にとっては成育環境の厳しさがある点を、地形地質図、スライドにより説明をうけ理解度をました。

この研修会で、函館山の自然に魅せられたのは私一人だろうか。

## 活動の輪を広げていこう

道央圏を中心とした私たちの活動を、すこしでも全道に広げていこうと各地の会員の方々の取組みや努力が、以前から行われていました。研修部・役員会の中でも平成9年度の反省を踏まえ、今年度は組織的に各地の活動を計画化しました。

その手始めとして、5月24日(日)旭川市「外国樹種見本林」を会場として、観察会が行われました。上川地方幹事の野呂一夫氏を中心として、上川地方の会員の方々と札幌圏の会員が一緒になり取り組んだこの会も成功裡に終わりました。

時間的な準備期間の制約もあって一般の参加者は多くはありませんでしたが、上川地区と札幌地区の会員の交流の場になったのは確かです。この試みをステップに上川地区の活動がさらに発展することを願っています。また、他地区での活動計画の情報もあり、私たちの会の活動が一段と輪を広げていく気配を感じます。

外国樹種見本林の一角に、作家 三浦綾子の記念館もオープンする予定と聞いています。ここは、観察会場としてよい場所となりそうです。



旭川と札幌の会員の皆さん（外国樹種見本林にて）

## 旭川自然観察会を終えて

上川地方幹事 野呂 一夫

5月24日(日)、薄曇り、微風。暑くもなく寒くもなく、絶好の観察日和。この日、旭川市「外国樹種見本林」において自然観察会が開催された。

この見本林は1898年(明治31年)にストローブマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパトウヒの4種類の苗木を始めて植栽して以来100年の歴史を持ち、現在この地方で生育が可能と考えられる30数種類の外国樹種を中心に約50種類あまりの樹種が植栽されており、貴重な展示林となっています。

また、この見本林は、昭和15年に自然休養林に指定され旭川市における憩いの森として、市民に親しまれており、敷地の中には三浦綾子記念館があります。  
(旭川自然観察会レジュメより)

アカゲラも大歓迎の姿をみせた、定刻の10時。「見本林」という特徴を生かして、ストローブマツなど外国樹種の学習から始まった。

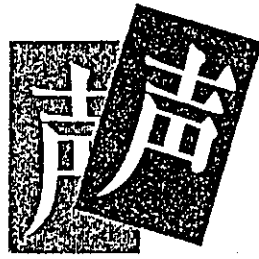
林床の小さな花たちや芽ぶきが足を止めさせ、聳え立つ外国の樹木に見とれるから、なかなか前へ進まない。五十嵐研修部長さんは、「これじゃ時間内に終わりっこないぞ」と、心中穏やかでなかったであろう。

ニセアカシアの名の由来、オオウバユリを通してアイヌの人たちの自然観、ウダイカンバとシラカンバの違い等々、互いに情報を交換したりレンジャーの説明を受けながら林を抜け、美瑛川の堤防に出る。ここからは三々五々川沿いの道で学習を深め、定刻の12時丁度に出発点に戻った。

この日、道すがら開花を確認できたのは、私のメモによると、コウライテンナンショウ、ルイヨウボタン、ミツバウツギなど33種類。数としてはさほど多くはないが、学習には決して不足な数字ではなかったと考える。

大友会長さんの参加も頂いて、道央から始めて外へ出たこの観察会であったが、一般参加者は十分に満足できたことであろう。また、上川の会員は5名参加したが、私共自身が多くのことを学ぶ機会でもあった。更に、ボラ・レン本部との距離がぐんと縮まったと思えたのは、私だけでなかったであろう。それだけに、大変なご苦勞とは思いますが、今後各地でこうした観察会を開催して頂きたいと、心から願ってやまない。

# 会員の



車窓より見る春間近か

札幌市西区 玉田 紀美子

札幌ー岩見沢間、私はよく高速バスを利用します。2月末頃より町の騒音の中にも、のどかな農村部にも春のきざしが見えてきます。

冬の晴れた日にははっきり見えていた恵庭岳や樽前山の輪郭がぼやけて見える日が多くなってきました。3月に入ると創成川のしだれ柳も黄色味かかっています。

岩見沢迄は大小の川を8本渡ります。豊平川や千歳川の河原の柳や灌木類の芽出しも、オレンジ、ピンクかかった茶色若枝も一段と明るくなってきました。

樹木の反射鬱で、木廻り穴（私は木のドーナツと呼んでいます）も少しずつ大きくなり土が見えてきます。日当たりの良い斜面には越冬したキク科のロゼットの葉も見えます。農村部に入ってから何と言ってもびっくりさせられるのは融雪剤を散布した白黒曲線しましま模様です。防風林の針葉樹の若木にユーモラスな造型が出現します。雪におさえられた下枝は円錐形、雪をまぬがれた枝は上向き、横一線に並んでいるのです。ちょっとその姿を想像して見てください。

岩見沢の利根別山は薄紫色にかがやいています。遠くに見える山は雪の白と樹木の濃紺がはっきり分れて見えます。

町の中の歩道の積雪もぐっと低くなり、黒ずんだ雪の中から空カン、タバコの吸い殻、ビニール等が顔を出し路肩の雪はどろんこの塊、札幌の町も一段と汚れが目立つのも春間近かなのでしょうね。

町行く人々の靴も軽装となり、もう雪から開放されたと思う気持ちが一番春間近かを感じるのではないのでしょうか。

(3月30日記)

去る3月14日付北海道新聞朝刊27面の「耳よりな話」欄で、“冬の森を観察しませんか”の記事を拝見し、道央の会員各位の活躍ぶりを想起し、うれしく思いました。それに引き替え、地方幹事を仰せ付きながら、何等の活動もせずに終始している我が身を恥じ入っているしだいであります。

御承知のように、当地方は観察会を開くのに、格好の地が随所にあります。身近かな釧路市内でも、春採湖周辺や武佐の森（産廃物処分場問題でクローズアップされている）、そして釧路湿原など……。これを舞台に、釧路湿原ボランティア・レンジャーの会をはじめ、野鳥の会、博物館などの諸団体や機関が、つぎつぎに観察会を開いているというのが昨今の実態です。

ともあれ、釧路地区には私を含めて、名簿には6名が登録されています。平成10年度には、是非とも一堂に会し、今後の活動や地方支部のあり方等について話し合ってみたいものと考えているところであります。

研修部の役を離れてからは、ボラレンの集まりにはすっかりご無沙汰しております。観察会に参加したいのですが、車を持たない私は、朝早くに現地集合するのが難しく遂々参加がそびれてしまいます。

山登り、自然観察が好きなのですが、足が動く間は続けたく、幸い私の住居が、北海道営林局が近いので、森林クラブに入会しました。営林局から現地まで、バスが出るのを利用して、観察会に参加しています。

小天狗岳では「ギンリョウソウ」を見つけて感激しました。朝日岳では「シラネアオイ」の群落が見事でした。まだ雪の残る余市岳の頂上は「這松」が山火事で焼けて白い幹だけが地面を這う中から、高山植物の緑が芽を出して踏みつけられないように歩いてきました。神仙沼、空沼岳、月形の杉林、等々で見かけた草花の名がわからないこともあります。ボラレンの観察会にも参加して、教えていただきたいと思えます。まずは、近況報告までに。

「自然解説員」の人材バンクに  
団体登録をしました

「お知らせ」

道では、道内の自然公園などで自然解説できる方を自然解説員人材バンクに登録し公園利用者に紹介するシステムを平成11年度からスタートさせる予定です。そして、この人材バンクの登録、紹介等の業務を道から委託を受けた、北海道環境財団がおこなうことになっています。

この趣旨を検討して、私たちの会「北海道ボランティア・レンジャー協議会」は、自然解説員として人材バンクに団体登録の手続きをいたしましたのでお知らせいたします。

#### 4月以降の活動

- 4月11日(土) ・第13回定期総会 於：かでの2・7  
(研究会 13:30~ 総会 15:00~ 懇談会 17:00~)
- 4月16日(木) ・森林公園事務所主催「4月の森の観察会」協力参加
- 5月14日(木) ・役員会 於：かでの2・7 18:00~
- 5月17日(日) ・森林公園事務所主催「春の森の観察会」協力参加 大沢口
- 5月24日(日) ・旭川自然観察会 外国樹種見本林駐車場
- 6月 7日(日) ・野幌自然観察会 野幌森林公園森の自然教室前
- 6月15日(月) ・広報誌「エゾマツ」45号 発行

#### 平成10年度 会費納入のお願い

今年度の会費納入の振り込み用紙を会報誌「エゾマツ」45号に同封いたしました。会の活動を円滑に進めるためには、会員の皆様の会費が必要不可欠です。

どうか、このことをご理解いただき、遅くとも7月末までに納入されますようお願いいたします。なお、会費納入についての問い合わせは下記の通りです。

会計担当 樋口 達郎 ( ☎ 011-892-2096 )



# 野幌森林公園 自然観察ガイドブックの写真撮影を担当して

札幌市 佐藤 健一

撮影したフィルムの記録を見ると最初に撮影開始した日付が平成7年4月28日大沢口となっている。

この日は、佐々木事務局長と大沢口で待ち合わせ撮影下見と観察をのんびりやりましょう、などと春の日差しの中、このおめでたい俄かカメラマンは林の中に入って行った。

フィルムを見ると、ナニワズ、オオウバユリ、フクジュソウ、ザゼンソウ、バイケイソウ、エゾエンゴサク、等など早春の使者たちが顔を並べている。

以来約2年にわたって野幌森林公園の植物（動物は見つけ次第）の写真撮ってきたが、当初の意気込み通うり事の運ばないのは世の常、大体、野草はこちらの注文どりのポーズを決してとってはくれないし、なかなかフレームの中に格好よく収まってくれない、おまけに道路わきで三脚の足場が悪いことが多く、うっかりしてストロボを側溝に落とし修理にだしたら、メーカーから修理不能、ヨドバシカメラで買った方が安いなどと言われがっかりした事があった。

新緑を過ぎると園内は意外と暗い、かなりストロボの世話になった。撮影について夢中になって落とし物、忘れ物は時々、チョウチョウ追っかけて三脚離れた時は少々慌てた。

いつも見ている梅沢俊さんの植物図鑑の写真、さりげなく撮っているようだが対象の特徴や構図のとりかたの上手さに改めてプロの腕前に脱帽したことを白状する次第であります。

さて撮影時のエピソードを二、三紹介する。

## \* UFOに襲われる

四季美コースの道端でファインダーを覗いていたところ後ろ方でブンブンと音がする気にもしないでいたところ、ダンダンと首筋に近かずにいてくるのではないかとジッとしていれば何処か飛んでいこうと思ったが、ますます近づいてくる気配、暑い日だったので首筋は無防備、一瞬ズメバチかなと思ったら背筋に冷や水が流れた。

それから静かに帽子を首筋に下げ四つんばいでそろそろと5メートルも逃げたろうか、まだついてくる、それから又そろそろ、やっとな音が消えた、辺りを見回しても向こうにカメラが見えるだけ、もとに戻ってファインダーを覗きこむと、まただ！

同じことを2度繰り返しあとは カメラ担いで一目散 なんやろな

\* Uターン

開拓記念館近くのアスファルト道路を歩いていると黒い紐が落ちている、近ずいて見ると黒いへび、珍しいのでカメラを向けると肖像権を侵害されたと思ったのか赤い口をあけて怒っている、カメラを下ろすと気が済んだのか（こちらの勝手な想像）ゆっくりと頭を道端の草むらに向けた、その形がまさにUの字 おかしかった。公園事務所の方に話をしたところ、時々黒変した個体がいる少々キカナイらしい。

\* クマゲラ

平成8年3月24日 快晴 冬芽の撮影をしよう和大沢口に出かけた、まだ雪が多い時々ズボット足の取られる道を大沢園地の方へ向かった。

正午近く大沢園地のヤエガワカンバの横を通ったところで沢の方向からカンカンと力強い音が聞こえる、大型のキツツキに間違いない、リックから250ミリの望遠レンズを引っ張り出しやっと出番がきたぞ、とカメラに装着、音のする方向に向かった。50メートルほど先のカツラの大木にクマゲラが一生懸命穴を空けている、鉛筆の半分ほどの木のかげらを嘴からとばす。（ガイドブック7ページの写真）

彼女はカツラの幹に空けた穴に首を突っ込み5回ほどご馳走を飲み込んだ。

1回の食事に30分もかけて木に大きな穴を空けねば冬の食卓にありつけないクマゲラ、どうして餌が大木の中にいるのが分かるのか不思議だ。

そんな事を考えたりし、食事の邪魔をすすみませんと横目で謝りカメラを畳んだ。おわりに

ガイドブック19ページにある アケボノソウ 一昨年撮影したものだが当日は風が強ク撮影に半日かかったのを記憶している。

なんとも魅力のある花なので撮影に再挑戦しよう状況を集めてたが 昨年は花の咲くまえに折られたりして全滅 今年は何んとか会いたいものだと思っている。

3月に行われたクマゲラ一斉調査では一羽も確認されなかったようだが、当日森林公園の何処かで集団昼寝でもしてたんだろうと、 思っている。

とにかく仕事の合間の森林公園通いちょっと苦勞もしたが、それ以上に勉強させてもらったことに大いに感謝し次の機会に役立てたい。

佐藤氏は、自然観察ガイドブック作成に際して写真撮影を担当していただきました。野幌森林公園に何度も足を運びました。そのご苦勞の姿がガイドブックに掲載されている写真から読み取れます。

# 北限のブナ林余話

札幌市 川 端 功 治

## 〈プロローグ〉

右は北海道新聞、平成10年3月24日付けの記事である。黒松内町が町興しのために発足したブナセンターが大変な賑わいを見せている様子が伝えられていて、誠に結構なことである。

ところが、多数の人が出入りすると、お定まりの環境損傷や汚染の兆候が見え始めたので、早速に対策の検討段階に入ったようである。その手始めとして、歴史的価値を調べて、その意義を強調することも一つの方法ではないかと考え、歌才のブナ林に関係のあった方々の昔話を聞かせて欲しいとの事と、汚染対策について意見を求めてきたので、次の文を寄稿した。

このような悩みは何処にでも起こり得る問題なので、参考にして欲しいという意図から、センターに断って次に掲げた次第である。

## 〈歌才のブナ林と私〉

太平洋戦争が我に利非ず、憂色も深まりつつある頃、私はその筋からの要請があったとして歌才のブナ林を伐採する計画を進めていた。

歌才のブナで木製の飛行機が造られるという噂が専らであった。空では金属製の隼や零戦が華々しく戦っているというご時世に、なんとしたことか時代後れも甚だしい木作りの飛行機なのかという噂を否定する極秘情報として、実は自爆用の特攻機なの

## 地域から 黒松内

後志管内黒松内町の人口は三千六百余人。北限のブナが、なせか元気な話題が多い。二月下旬、町営の体験型博物館「ブナセンター」の入館者が通算1万人を突破した。一九九三年六月のオープンだから、五年足らずでの快挙。センター長の樋口敬山さんが「当初は年間三千人入るかどうか不安だったのに」と驚くほどのスピード達

## まちの元気は住民から

成だ。十万人自の入館者となった同管内倶知安町の男性が、その秘密を語ってくれた。「センターには月に一回は必ず来ます。黒松内が好きで、住みたいくらいです」と。ブナセンターの入館者は、いわゆるリピーターが大半。各種講座やイベントなど、積極的な活動が功を奏した形だ。町外からのリピーターは、また熱心な「黒松内ファン」でもある。同センターが週末だけ黒松内を過ぐす人のためにと創設した「ブナ里道未田舎人」制度の会員は、その顔は、住民なんだと。

岩内支局  
横山 聡

だと伝わってきた。

米軍の飛行機探知機は金属に敏感だが、木製には鈍感なので、その裏を掻き夜陰に乗り低空飛行で接近し、体当たりで火薬を爆発させ、敵に多大なる損害を与えるのだというが、制空・制海権を失えば、かくも悲惨な事になるのかと嘆き合う事しきりであった。その頃、毎日のように飛び立つ特攻機の発進風景が新聞に掲載された。整列した基地要員のお別れの敬礼をうけながら、機上の少年特攻兵が手を振っている毎度の風景であるが凜々しくあっても何処か幼さを残した童顔が、新聞を見る人の胸を締めつけ、首のマフラーの白さが目に染みだした。

これとは別の情報で、プロペラもブナで作られると言う噂も流れてきた。このことについて私は、別の見解を持っていたのである。それはプロペラの適材はマカバ（ウダイカンバ）に限るとされ、その積層合板の高度に加工されたものが、新鋭機に装備されているのだと聞いていて、道産マカバが豊富なその頃は、ブナの出番は無いものと考えていた。もしもブナに出番があるとすれば、安価で、大量に生産できて、プロペラが多少狂っていて良いという飛行機の注文であれば納得できた。

それは四の飛行機である。大量に四を並べ敵の集中攻撃を誘い、タイミング宜しく一斉対空砲火の火蓋を切る。子供騙しのような考え方ではあるが、特攻機のことを忘れたかったので、この噂を信じたかった。

あれこれと気忙しいある日、突然に北大の館脇教授の来訪を受けたのである。

「先生しばらくでした。」の挨拶も終わらないうちに、「ブナは伐るな！」「絶対に伐らせんぞ！」それは百雷が一度に落ちたような大声であった。そして先生は一気にまくし立てた。要旨は「地球上の人類が、子々孫々迄永久に、そして大切に保存しようとして取決めたのが天然記念物なのだ。歌才のブナはその天然記念物に指定されて居るのだ。だから日本人はこれを守り通す絶対の責任がある。もしものことがあれば俺は世界の学者になんとお詫びしてよいか」「ブナは絶対に伐らさんぞ！」絶叫に近い大声なので些か持て余していた。

ところで私の立場も理解して貰わなければならない。私の所属する営林区署の命令系統と、その筋と称する系統の命令との上下関係、力関係がよく判らなくて困惑していたが、ままとばかり世界的な大先生に向かって、一矢を報いようと、蠟燭の斧を

掲げたのは、今思い返してみても正しく汗顔もので、当時の20才台の青二才のころが懐かしい。

その一矢とは「先生、北限のブナという理由で天然記念物にするなら、歌才よりも北にある 目名（白井川保護林）ブナ林を天然記念物にしてはどうですか。国家存亡を問われている時です。歌才のブナ林を伐っても止むを得ないと思いますが。」と進言した。またまた百雷が落ちるかと思いきや、一段とトーンを下げて「君は何も判っていないだ」 哀れむように、そして諭すように「ブナは遠い国から旅をして辿りついた所が歌才なのだ。連れてきた一族や草花、昆虫や小動物、と睦まじく暮らしているのが君に見えんのか」 語りかけるような何時ものお説教の始まりで段々旗色が悪くなりだしたので、「先生、お昼どきなのですが、お米が有りませんので、カボチャで我慢してください。このカボチャはマサカリカボチャと言って、ホコホコして美味しいご当地名産です。」とコマーシャル付きで差し出したところ、突然先生は立ち上がり、朗々と詩を吟ずるように「我濁しても、盗泉の水は飲まず（昔中国に孔子という偉い人が、地方巡視中喉が乾いたので水を所望したところ、名水である盗泉の水が捧げられたがその名前を嫌って飲まなかった。清廉潔白の手本として諺になった）

「川端君の差し出す食べ物は一切食べんぞ。」

驚く私に「君は組織の身、上司の指示で行動することは承知しているが、軽挙盲動を心配して、飛んできたのだ。何分の指示有るまで、絶対に手をだすな！」と念を押して帰ってしまったが、数日を経たないで、歌才のブナ林の伐採中止の指示があったのである。先生が何処かにねじ込んだのか、どんな役職の方に抗議したのか皆目不明であった。

それから、私の大奮闘の始まりとなった。中止と同時に引き替えの事業が指示された。添別川沿岸のブナ、島牧小金井のブナ、千走川沿岸のブナの伐採搬出、永豊ブナ単板軍需工場建設、島牧の住民から「我々は黒松内の身代わりになるのか」と抗議があったが、90名の歌才と、30000名のスケール差で別次元の事と了解して貰った。

そこへ水兵300名が苦小牧に上陸。戦艦が撃沈され、もはや乗せるべき船が無いので、ブナ伐採に使役せよとの指令に驚いて、山頭、人夫等を集めて協議したが、重いブナはズブの素人に扱える筈もなく、対応に苦慮しているうちに突然、青天の霹靂

終戦。啞然として無為に過ごしているところへ、江別の航空機製作工場（王子製紙の強制転換工場）に木製飛行機が3機放置されているという噂が流れてきたが、それがブナで造られているのか、特攻機なのか、実際に空高く飛べるのかどうか知りたかったが、もはや調べに出かける気力もなかった。上部から指示があって、機密文書、特にその筋の関係文書は丹念に焼却することに明け暮れていた。

### 〈エピローグ〉

あれから50年余りの永い年月が、忘れてしまいたいことの全てを風化して呉れたのではないか。そんな期待を込めて黒松内ブナセンターで数年前に開かれた研修会に参加した。歌才のブナは以前にも増して、逞しく枝を張り、健やかな日々を過ごしている様子を伺えた。君達を伐採しようとした男ですよ等とは決して言わないことを誓ってきたので、さりげなく「さようなら」を告げて下山した。

瀟洒なブナセンターで町長さんやエコネットワークの小川巖さんと懇談し、有益な一時を過ごすことができた。センターのスタッフの熱心な活躍振りは大変に好評を博している様子から、ゆくゆくはこの地方を纏めた工芸、文芸を含める大文化センターに発展するのではないかという胎動を感じたのは、私独りでは無かったようである。

そうするとブナの緑風に育まれたセンターだから、先住樹木のトドやミズナラ等も交えた大森林の環境が望ましく、ボランティア活動に支えられた大植樹運動を期待したい。この造られた森は人々の憩いの場となり、子供の遊び場、レクやイベントの場となり、歌才のブナ林は学びの場となる棲み分けが、自ら出来上がるのでは無いか。

久方振りにブナの風に触れたので、胸が膨らみ、つい多弁を弄しました。多謝。

### 《略 歴》

当時 倶知安営林区署勤務  
元 函館営林局事業部長  
現 北海道ボランティア・リーダー協議会 副会長

# 第13回 総 会 報 告

平成10年4月11日(土) 13:30から19:30まで、研修会、総会及び懇親会が行われました。

研修会は「北限のブナ林余話」と題し講師 当会副会長の川端功治さんの講演がありました。

北限のブナ林の生い立ちや現況 将来に向けて保存は如何にあるべきかなど川端さんのゆったりとしたなかに軽妙でユーモアに溢れた話しぶりに皆さん聞き入っていました。

川端さんの人となりについては会報「えぞまつ」43号に前事務局長の佐々木幸夫さんが詳しく紹介してをります。

定期総会は定刻どうり開始現在会員数179名出席者47名委任状92名合計139名で総会は成立しました。

会長挨拶の後 小杉野幌公園事務所公園管理部長から大沢休養園地の今後の計画、アオサギのコロニー等の話題を含めた挨拶がありました。

来賓の方々はこの皆さんです、野幌公園事務所から石井主任技師、魚津公園利用課長、大沼主任、永安さんでした。

議長に松野誠也さん、議事録署名人に藤内道夫さん、猪師勉さんを選任早速議事に入りました。

議案書は「えぞまつ」当号に掲載されております。

総会は各議案を佐々木事務局長、佐藤総務部長、樋口会計担当、田村広報部長から報告議案並びに提案議題を説明し異議なく原案どおり承認されました。

次に役員改選になり次の方々が新役員に決定しました。

会長 大友 健

副会長 川端 功治 (研修、広報 担当)

副会長 事務局長 \* 佐藤 健一 (総務 担当)

理事

総務部 部長大槻 日出男 \*阿部 徹 小淵修子 今野 義也 樋口 達郎 (会計)

研修部 部長五十嵐 一夫 伊藤 秀平 \*小泉 三男 小林 英世 田中 利男

近久喜枝 \* 矢島 慶子

広報部 部長田村 允郁 稲葉 孝徳 香島 由美子 菊地 英樹 三崎 篤

監事 \* 猪師 勉 \*小泉 郁夫

アドバイザー 佐々木 幸夫

\*印は新任の方です

退任された役員の方

事務局長 佐々木 幸夫さん 総務部 武田 洋子さん 研修部部長 瀧谷 尚弘さん  
研修部 須賀 盛典さん 広報部 藤田 正次さん 監事 目黒 孝さん 我妻 庄三さん  
以上 7名の方々です。

尚、元事務局長の佐々木 幸夫さんには長年蓄積された豊富な経験と知識を会のアドバイザーとして登録させていただき、ご協力いただくことになりました。

皆さん 大変 お疲れさまでした、心から拍手おくります 有難うございました。  
この中で特に佐々木 幸夫さんは平成6年から事務局長を担当持ち前の馬力で会を支える力となってきました ひとつ余計に拍手をおくります。

さて、総会終了後例年馴染みになった 興銀ビル地下「レストラン ユック」で懇親会が開かれました。

出席者各自のユニークな自己紹介や情報交換など和やかな雰囲気の中で時間のたつのも忘れ歓談のうちに野幌公園事務所の美人職員永安さんの閉めの乾杯でおひらき。  
楽しいひとときでした。

事務局



クサソテツ(コゴミ)  
*Mattenuccia struthiopteris*



# 北海道ボランティア・レンジャー協議会 第13回定期総会議案

とき : 平成10年 4月11日(土) 15:00~17:00  
ところ : 「かでる2・7」10階 語学演習室  
札幌市中央区北2条西7丁目

## 第13回定期総会議事次第

1. 開会あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 来賓あいさつ・紹介
4. 議長選出と議事録署名人の指名
5. 議長就任あいさつと議事録署名人の紹介
6. 議事
  - 議案(1) 平成9年度事業報告(10周年記念事業を含む)
  - 議案(2) 平成9年度決算報告(10周年記念事業を含む)ならびに監査報告
  - 議案(3) 平成10年度事業計画(案)
  - 議案(4) 平成10年度予算(案)
  - 議案(5) その他
  - 議案(6) 役員改選  
役員選考委員の選任、新役員の承認、新・旧役員あいさつ
7. 議長退任あいさつ
8. 閉会あいさつ

連絡事項(事務局・総務部・その他)

議案(1) 平成9年度事業報告

1. 北海道ボランティア・レンジャー協議会第12回定期総会 1回  
平成9年4月12日(土) 15:00-17:00「かて32-7」出席者49名、委任状87名、計136名/159名=85.6%
2. 北海道ボランティア・レンジャー協議会役員会 5回(うち、1回三役会)  
平成9年5月8日(木)「かて32-7」15名、平成9年9月12日(金)「かて32-7」16名、  
平成9年12月19日(金)「かて32-7」4名、(三役会) 平成10年1月23日(金)「かて32-7」15名、  
平成10年4月1日(木)「かて32-7」16名、
3. 自然観察会 注)野幌森林公園内での自然観察会は、野幌森林公園事務所が協力。  
環境月間協力行事「野幌自然観察会」平成9年6月1日(日) 10:00-12:00  
「ニセコの自然」平成9年6月29日(日) 10:00-12:00  
「恵庭の自然」平成9年7月13日(日) 10:00-12:00  
「真駒内の自然」平成9年8月10日(日) 10:00-12:00  
「利根別の自然」平成9年9月7日(日) 10:00-12:00  
「野幌自然観察の集い」平成9年9月28日(日) 10:00-12:00  
「宮城の沢の自然」平成9年10月26日(日) 10:00-12:00  
「野幌の自然」平成9年11月16日(日) 10:00-12:00  
「野幌の冬の森」平成10年2月22日(日) 10:00-12:00
4. 会員研修  
研修会……「探蝶会」講師 協議会理事 藤田正次氏 平成9年4月12日 昼会前  
交流会……平成9年6月28日(土)「ニセコの自然」の下見をした後、意見交換・スライドの上映をした。  
自然観察会の下見……随機的に、会員の研修という位置付けで実施した。
5. 会報「エゾマツ」の発行  
第41号 平成9年6月10日、 第42号 平成9年10月20日、  
第43号 平成10年1月10日、 第44号 平成10年3月30日、
6. 調査  
平成9年7月10日(木)野幌森林公園隣接の池周辺の植生調査、過去数年にわたり暗緑の池貯水位を最低としたため、その周辺の高水位と低水位の間に  
植物が生じたので、その植生を調査した。
7. 支部・地方幹事との連携  
支部・地方幹事との連携を密にするため、年度当初郵便手2,000円を配付した。また、一部地域会員の協力で自然観察会を実施した。
8. 事業関連の協力と参加  
ア. 北海道野幌森林公園事務所主催の「森の観察会」(日)の協力・参加  
「春の森の観察会」平成9年5月18日、「秋の森の観察会」平成9年10月19日、「冬の森の観察会」平成10年3月22日、  
イ. 北海道野幌森林公園事務所主催の「森の観察会」(木)の協力・参加  
「4月の森の観察会」平成9年4月17日、「7月の森の観察会」平成9年7月3日、「8月の森の観察会」平成9年8月7日、  
「12月の森の観察会」平成9年12月4日、「1月の森の観察会」平成10年1月8日、  
ウ. 北海道野幌森林公園事務所による休養園地区の鳥類補足調査の協力  
平成9年4月から6月にかけて9日(延べ18人)。  
エ. 北海道石狩支庁・千歳市共催の「自然観察会」への協力・参加  
千歳市市民を対象とした千歳市「美々川流域での自然観察会」平成9年7月13日(日)、  
オ. 江別市中央公民館主催の「自然観察会」への協力  
「春の自然観察会」平成9年5月29日(木)、「秋の自然観察会」平成9年10月23日(木)、  
カ. 全道庁退職者会白石分区主催の「自然観察会」への協力  
平成9年8月20日(木)、

- キ. 「目（色）に障害のあるグループ」主催の森林公園散策への協力  
平成 9年 9月12日（金）に下見をしたが、本日は天候不順で中止する。
- ク. 札幌厚生年金受給者協会厚別支部主催の「野幌森林公園の散策」への協力  
平成 9年 9月25日（木）、
- ケ. 立命館大学慶祥高校主催の「森林公園探索」への協力  
第1回 平成 9年10月 4日（土）、 第2回 平成 9年10月18日（土）、
- コ. 婦人の友札幌支部主催の「野幌森林公園を歩く」への協力  
平成 9年10月10日（金）、
- サ. 稲穂連合町内会主催の「野幌森林公園を歩く」への協力  
平成 9年10月18日（土）、
- シ. 野幌森林公園クマケラー斉調査（野幌森林公園を守る会主催）への協力  
平成10年 3月15日（日）、3月22日（日）の「冬の森の観察会」下見を兼ねて調査に協力した。
- ス. 関係機関・団体が行なう研修会などの協力・参加  
平成 9年 7月18～20日の3日間、釧路町で北海道が主催した「ボランティア・レンジャー育成研修会」の研修と講師派遣。  
北海道立体育実践場主催の森林みどりの技術者養成セミナーの参加（美瑛市）  
フォーレストガイド養成講座（Ⅰ）平成 9年 5月21～24日、フォーレストガイド養成講座（Ⅱ）平成 9年 9月17～20日、
- セ. その他  
平成 9年10月 4日 北海道民有林治山事業50周年をにぎに保安林制度発足100周年記念有賀祭（野幌森林公園内道有林）に参加。

9. 備 品

業務用印刷機2台1型、…（事務局住々木孝夫 〒004-0004 札幌市厚別区厚別東4条8丁目4-20 ☎(011)898-8177で保管）  
双葉機15台、望遠鏡2台、顕微鏡5本、救急医療携帯箱1個…（北海道野幌森林公園事務所公園管理課公園利用課 〒004-0006札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 ☎(011)898-8177で保管）

10. 10周年記念事業

ア. 野幌森林公園自然観察ガイドブック

SELF GUIDE BOOKが、「野幌森林公園自然観察ガイドブック」として完成し、1,000冊印刷された。現在までの配付・販売状況は、現会員ならびに協議会で10周年記念事業として特別会計に支出した年から現会員に配付した時点までに退会された元会員と、協議会が現在までにお世話になった関係機関・団体・個人と現在までに協議会に対する謝会などの参考資料として配付した。また、北海道野幌森林公園事務所に200冊販売したものと会員の紹介により44冊を販売し、さらに北海道開拓の村・北海道開拓記念館文化振興会売店に100冊委託販売中で、残り215冊について新会員・PR・備品用とする。

議案（2） 平成9年度決算報告（10周年記念特別会計を含む）および監査報告

平成9年度決算報告書

収入の部		単位：円		
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
前年度繰越金	210,318	210,318	-	
年会費	450,000	474,000	24,000	
雑収入	19,682	344,780	325,098	
合 計	680,000	1029,098	349,098	

注) 摘要欄  
 年会費……158名分。 雑収入……成田伸一会員紹介により、札幌ジーエス販売株式会社(札幌市)、共済運送株式会社(札幌市)、千代田電業工業株式会社(旭川市)の各企業から10万円の寄付と、その他3件の寄付金。

支出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
総務部費	60,000	32,355	27,645	
研修部費	120,000	36,654	83,346	
広報部費	250,000	184,810	65,190	
事務局費	60,000	54,616	5,384	
活動予備費	50,000	38,000	12,000	
特別会計	20,535	-	20,535	
合計	119,465	119,465	-	
合計	680,000	465,900	214,100	

注) 摘要欄

総務部費……総会案内はがきほか、ラベル用紙代、懇談会誘引分、小冊子送料、郵便料など。 研修部費……フィルム代ほか、自然観察会反省会費用など。 広報部費……会報郵送料ほか。 事務局費……郵送料、総会会場借上げ料、コピー代、消耗品代、電波利用料など。 活動費……地方幹事郵便手代、遠征地会員の総会参加奨励金など。

収支残高

単位：円

項目	収入	支出	残高
実績	1029,098	465,900	563,198

563,198円を、次年度への繰越金とする。

10周年記念事業特別会計

収入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
前年度繰越金	398,535	398,535	-	
特別会計	119,465	119,465	-	
雑収入	-	122,000	122,000	
合計	518,000	640,000	122,000	

注) 摘要欄

雑収入……野幌森林公園自然観察ガイドブック244冊の販売代金。

支出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
印刷製本費	473,000	472,500	500	
発送費	35,000	13,770	21,230	
雑費	10,000	18,000	-8,000	

合 計	518,000	504,270	13,730
-----	---------	---------	--------

注) 摘要欄

印刷製本費……1,000円。 発送費……野幌森林公園自然観察ガイドブック送料。

収支残高

単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高
実 績	640,000	504,270	135,730

135,730円を、一般会計に振り向ける。

なお、10周年記念事業特別会計はこれをもって閉鎖し、今後の野幌森林公園自然観察ガイドブック販売代金は、全て一般会計に入れるものとする。

◎ 平成10年度に繰り込まれる金額

一般会計563,198円+特別会計135,730円=698,928円

議案(3) 平成10年度事業計画(案)

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

- 北海道ボランティア・レンジャー協議会第13回定期総会 1回  
平成10年4月11日(土)15:00-17:00「かて32・7」10階 講義室  
出席者 名、委任状 名、計 名。会員総数/協会員数= %
- 北海道ボランティア・レンジャー協議会役員会(理事・監事を含む)年4回  
三役会は、必要に応じ開催する。
- 自然観察会  
環境月間協力行事「野幌自然観察会」  
旭川(外国樹種見本林)自然観察会 平成10年 5月24日(日) 10:00-12:00  
「神威岬の自然」 平成10年 6月28日(日) 12:00-14:00  
「ニセコの自然」 平成10年 7月12日(日) 11:00-15:00 (昼食用意)  
「真駒内の自然」 平成10年 8月 2日(日) 10:00-12:00  
「利根別の自然」 平成10年 8月30日(日) 10:00-12:00  
「宮城の沢の自然」 平成10年 9月13日(日) 10:00-12:00  
「野幌自然観察の集い」 平成10年 9月27日(日) 10:00-12:00  
「野幌の自然」 平成10年11月15日(日) 10:00-12:00  
「野幌の冬の森」 平成11年 2月28日(日) 10:00-12:00  
その他、十勝で自然観察会開催を検討中。
- 会員研修  
研修会……「北限のブナ林余話」講 協理会副会長 川端功治氏 平成10年 4月11日協会員  
交流会……平成10年7月11日(土)「ニセコの自然」の下見をした後、意見交換・ニセコ地方のスライド上映予定。  
自然観察会の下見……原則的に、会員研修という認識で実施する。
- 会報「エソマツ」の発行  
1. 活動の基本  
会員の方から発信される主張、感想、報告、情報を広く収集し、それらを編集して広報誌「エソマツ」で発信していきます。従って、「エソマツ」を会員相互の研修の場と考えていきたい。

2. 編集にあたって

(1) 多くの会員の声を反映させたい - 「会員の声」のコーナーを確保していく。 - 趣味、旅行記行、雑学等に広げ、投稿してもらおう。

- (2) ボランティア・レンジャーとしての力量を高める。 - 全道各地で行なわれる研修会・観察会情報も掲載していく。  
 (3) 自然や環境に関わる情報を掲載していく。 - その時々キーワード、新刊書の紹介をしていく。

3. 発行期日

年 4回「エゾマツ」発行 ①4月中旬 ②7月初旬 ③10月中旬 ④1月初旬

6. 支部・地方幹事との連携

従来以上に、支部・地方幹事との情報交換を主体にした、地域との連絡網が持てる関係の構築を図りたい。

7. その他、関係機関・団体が行なう自然観察会への協力・参加

ア. 北海道野幌森林公園事務所主催の「森の観察会」(日)への協力・参加  
 「春の森の観察会」平成10年 5月17日 9:30~14:00 「秋の森の観察会」平成10年10月18日 9:30~14:00  
 「3月の森の観察会」平成11年 3月28日 9:30~14:00

イ. 北海道野幌森林公園事務所主催の「森の観察会」(木)への協力・参加  
 「4月の森の観察会」平成10年 4月16日 10:00~12:00 「7月の森の観察会」平成10年 7月 2日 10:00~12:00  
 「8月の森の観察会」平成10年 8月 6日 10:00~12:00 「12月の森の観察会」平成10年12月 3日 10:00~12:00  
 「1月の森の観察会」平成11年 1月14日 10:00~12:00

ウ. 江別市中央公民館主催「自然観察会」への協力

5月の「春の自然観察会」に、従来どおりの協力依頼あり。

8. 各関係機関・団体が行なう自然保護、環境の保全に係わる調査の協力・参加

9. 各関係機関・団体が行なう研修などに係わる協力・参加

10. その他、協議会の目的に沿ったボランティア活動に係わる協力・参加

議案(4) 平成10年度事業予算(案)

平成10年度予算書

収入の部

単位：円

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	698,928	
年会費	510,000	会員数170名×3,000円
雑収入	41,072	野幌森林公園自然観察ガイドブック販売代金その他
合計	1250,000	

支出の部

単位：円

項目	予算額	摘要
総務部	60,000	郵送料、議会案内がきりか、議会会場借上げ料、その他消耗品代。
研修部	120,000	自然観察会反省会費用、郵送料、電波利用料、その他消耗品代。
広報部	300,000	用紙代、郵送料、その他消耗品代。
庶務局	260,000	郵送料、その他消耗品代、ワープロ1台、コピー機1台。
活動費	50,000	地域会員活動費、郵便切手、その他。
設備立	120,000	
予積金	340,000	

合 計	1 2 5 0 , 0 0 0	
-----	-----------------	--

議案（５） その他

1. 備品の活用

数回的に備品の活用を図りたい。なお、事前に借りる物品の確認を管理者にすること。

2. 旗と腕章の寄贈

成田伸一会員から、旗5枚、腕章100枚の寄贈。

3. 全国ナチュラリスト大会（仮称）の参加

全国自然公園大会が本年8月湖柯富山県で開催され、それに併せて全国ナチュラリスト大会を初めての試みとして開催することになり、協議会に参加要請があった。現在、田村太郎、五十嵐一夫、成田伸一会員が参加予定。


4. その他

議案（６） 役員改選

## 平成9年度監査報告（特別会計を含む）

監査結果につきまして、諸帳簿ならびに領収書などにつき、つぶさに確認、照合しましたが、相違なく正確かつ適正であることを認め、監査報告とします。

平成10年4月1日

監事 目黒孝 

監事 我妻庄三 



# 観察会研修会 情報

## 【平成10年度（6月～9月）開催・協力予定の自然観察会】

### ◎ 恵庭の自然観察会

平成10年6月21日（日） 10:00～12:00 （下見 6月14日）

集合場所 恵庭公園駐車場

オオウバユリの大きな葉があちこちに見られます。シダ類の観察もできるでしょう。ユカンボシ川（湧水川）のせせらぎは気持ちのいいものです。

### — 神威岬の自然観察会 —

平成10年6月28日（日） 13:00～15:00

集合場所 神威岬駐車場

（下見は当日の10:00～12:00 昼食を各自用意してください）

岬の先端部や海上の岩場では、ミサゴの営巣がみられるかもしれません。また各種の海鳥も観察できるでしょう。

海岸線の斜面にはニッコウキスゲ（エゾカンゾウ）の花が一面にさきみだれていますし、日ごろ目にしない海浜植物がみられます。

当日は美国で積丹まんぶく祭りが予定されています。道路の混雑が予想されますので、時間に余裕をもって参加してください。

### ◎ 7月の森の観察会（公園事務所に協力）

平成10年7月2日（木） 10:00～12:00 （下見 6月25日）

集合場所 北海道開拓記念館前



## ニセコの自然観察会

◆平成10年7月12日(日) 11:00~15:00 (昼食用意)

◆集合場所 共和町神仙沼休憩所駐車場

(下見は前日の10:00~15:00 昼食用意)

◆交通機関 ニセコバス JRニセコ駅発 10:00 → 神仙沼着 10:42

神仙沼発 15:53 → JRニセコ駅着 16:35

毎年恒例の観察会ですが、今年はコースと時間を変更しました。神仙沼休憩所駐車場をスタート、長沼まで行き昼食を取ります。昼食後、神仙沼を經由して大谷地までのコースです。

長沼へ行く途中で、ベニバナイチゴ、大谷地ではコバイケイソウの群落、フサスギ、ハクサンチドリが見られます。しかし、今年は雪解けが早かったので無理かも知れません。その他、ネムロコウホネ、ニッコウキスゲ、ヒオウギアヤメ等、湿原の植物を観察しましょう。

◆交流会・宿泊 ペンション「ふきのとう」

( 会員 池田 郁郎氏 経営 北田郡ニセコ町ニセコ482 ☎0136-58-2623 )

◆前日より参加の方は、宿泊費は 7500円程度です。参加希望の方は

研修部 五十嵐 一夫まで連絡ください。( ☎ 01332-3-0604 )

◎真駒内の自然観察会 8月2日(日) 10:00~12:00

集合場所 地下鉄真駒内駅前 (下見 7月26日)

◎8月の森の自然観察会(勤) 8月6日(木) 10:00~12:00

集合場所 北海道開拓記念館前 (下見 7月30日)

◎利根別の自然観察会 8月30日(日) 10:00~12:00

集合場所 利根別自然休養林駐車場 (下見 8月23日)

◎宮城の沢の自然観察会 9月13日(日) 10:00~12:00

集合場所 市バス 平和の滝バス停 平和公園奥の駐車場 (下見 9月6日)

◎野幌自然観察の集い 9月27日(日) 10:00~12:00

集合場所 野幌森林公園森の自然教室前 (下見 9月20日)

# ニセコの自然観察会案内地図



平成10年度に主催・協力する自然観察会

観 察 会 名 称	月 日	時 間	集 合 場 所	下見月日	備 考
4月の森の観察会	4月16日(木)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	4月9日(木)	
春の森の観察会	5月17日(日)	9:30~14:00	野幌森林公園大沢口	5月10日(日)	昼食
旭川自然観察会	5月24日(日)	10:00~12:00	旭川市外国樹種見本林駐車場	5月17日(日)	
野幌自然観察会	6月7日(日)	10:00~12:00	野幌森林公園森の自然教室前	5月31日(日)	
恵庭の自然	6月21日(日)	10:00~12:00	恵庭公園駐車場	6月14日(日)	
神威岬の自然	6月28日(日)	13:00~15:00	積丹町神威岬駐車場	6月28日(日)	下見は当日の10:00~12:00、昼食
7月の森の観察会	7月2日(木)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	6月25日(木)	
ニセコの自然	7月12日(日)	11:00~15:00	共和町神仙沼休憩所駐車場	7月11日(日)	下見は前日、昼食
真駒内の自然	8月2日(日)	10:00~12:00	地下鉄真駒内駅前	7月26日(日)	
8月の森の観察会	8月6日(木)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	7月30日(木)	
利根別の自然	8月30日(日)	10:00~12:00	利根別自然休養林駐車場	8月23日(日)	
宮城の沢の自然	9月13日(日)	10:00~12:00	平和滝バス停、平和公園の噴水	9月6日(日)	
野幌自然観察の集い	9月27日(日)	10:00~12:00	野幌森林公園森の自然教室前	9月20日(日)	
秋の森の観察会	10月18日(日)	9:30~14:00	野幌森林公園大沢口	10月11日(日)	昼食
野幌の自然	11月15日(日)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	11月8日(日)	
12月の森の観察会	12月3日(木)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	11月26日(木)	
1月の森の観察会	1月14日(木)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	1月7日(木)	
冬の森を歩く	2月14日(日)	10:00~15:00	北海道開拓記念館	未 定	昼食
野幌の冬の森	2月28日(日)	10:00~12:00	北海道開拓記念館前	2月21日(日)	
冬の森の観察会	3月28日(日)	9:30~14:00	野幌森林公園大沢口	3月22日(日)	下見は3月22日(月)、昼食

\*備考欄に記入のない場合の下見は1週間前の同時刻

## ■■■■■■■■■■ 編集後記 ■■■■■■■■■■

◆平成10年・11年の新体制が4月11日の第13回総会で決定しました。本会のさらなる発展をめざして、各部のスタッフが計画を立てながら活動を進めていきます。全道に散在する会員の皆様には、地域的な事情で活動に参加したくても無理な方々もいらっしゃることでしょう。そういう方々のためにも広報の果たす役割は大切なものとなりますので、広報紙作りにこれからの2年間、知恵をしぼっていきたいと考えています。

◆旭川での観察会が企画され、先日終了しました。旭川での観察会は私たちの会にとって画期的なことです。このような活動が各地に広がっていくことを期待せずにはいられませんし、上川地区の会員の皆様の活動が継続していくことを願っています。

また、各地での活動の計画がありましたら、事務局まで一報ください。エゾマツを通じ会員の皆様に情報を発信していきたいと思えます。

◆今年の総会に先だって行われた研修会では「北限のブナ林余話」との演題で副会長の川端功治氏の講演をいただきました。その内容を今回の「エゾマツ」に掲載の予定でしたが、紙面の都合で、次回の号に回します。次号にご期待ください。

北海道ボランティア・レンジャー協議会  
会報誌「エゾマツ」45号 1998.6.15 発行  
発行責任者 大友 健  
(表紙絵 広報 三崎 篤)